米国 AI ブームの行方

～OpenAI、Anthropic、SpaceX・Tesla、Nvidia 等主要各企業の思惑と大型 IPO の成否～

－講　師－　　**在米ジャーナリスト 岩田　太郎** 氏

日　時　　**2026 年４月２３日（木）**　午前１０時～１２時
受講方法　ライブ配信／アーカイブ配信（２週間、何度でもご視聴可）

［重点講義内容］

2025 年に急騰した Nvidia やマイクロソフト、オラクルなど主要 AI 銘柄が 2026 年に入り減速している。一方、AI ブームの火付け役である OpenAI とそのパートナーであるオラクルだけでも、データセンター建設に合わせて 4000～5000 億ドル（約 63～79 兆円）もの投資を表明。

米 AI 企業は表面上、熾烈な開発競争を繰り広げる一方で、OpenAI を中心に互いに巨額の投資を行いながら仲間内で資金を循環させて支え合う奇妙な投資スキームを作り上げている。この構造を読み解き、その持続性や AI 実需の動向、AI ブームの賞味期限、そして OpenAI など AI スタートアップ新規上場（IPO）の成功見込みを予測する。

１．シェア獲得に向けた仁義なき競争と、OpenAI を中心とする循環投資による「巨大護送船団」の支え合い
- （1）「生成 AI の王者」である OpenAI の ChatGPT と猛烈に追い上げるグーグルの Gemini や Anthropic の Claude の熾烈な性能競争とシェアの奪い合い
- （2）AI 向け半導体の最大手 Nvidia と AMD および OpenAI、マイクロソフト、オラクル、アマゾンなどが互いに巨額投資をする不透明な構造（例：OpenAI がオラクルに支払う演算能力使用料の 3000 億ドルの一部が Nvidia 製の半導体購入に回り、Nvidia はその収入の一部を OpenAI への投資に回す）
- （3）「大きすぎて潰せない」存在に成長した OpenAI は最も多く投資を行い、同時に最も多く投資される有利な立場
- （4）米経済論壇における循環投資スキームへの懐疑論

２．ノーベル経済学賞受賞者など米大物識者に直接取材した感触や取材を基に AI ブームが 2026 年にまだ弾けないと予想する理由
- （1）2024 年ノーベル経済学賞受賞者のマサチューセッツ工科大学サイモン・ジョンソン教授「ブームは明らかに（データセンター建設ラッシュなどの）役に立つ実態を伴っている」、CNN コメンテーターのファリード・ザカリア氏「現在がバブルだからと言って、必ずしもそれが半年や 1 年で弾けるわけではない」
- （2）AI 銘柄は調整局面に入っているが、「AI 株なら何でも買う」から「収益性が見込める銘柄」へのシフトが起こっている

３．法人や消費者からの実需が不足する中で、「最も実用的なエージェント」を開発した企業が勝つワケ
- （1）人間に代わりタスクをこなす AI エージェントは翻訳・要約・カスタマー対応などを除き実用レベルに達していないが、特に E コマースなどで AI エージェントの開発競争が進んでおり、当該分野で信頼を得る企業が生き残る

４．AI とロボットを融合するヒューマノイドなど「フィジカル AI」はどのくらい有望か
- （1）テスラの Optimus や 1X Technologies の NEO など 2026 年中の発売が予定されるヒト型ロボットの開発の現状、高まる市場の期待、実用レベルの製品開発の困難さ

５．民需不足を補うために米軍による契約に食い込むことを目指す各企業の思惑
- （1）ベネズエラやイラン、ガザなどにおけるパランティア社や OpenAI、Anthropic の軍事標的選別や攻撃型ドローンをはじめとする軍用 AI の発展
- （2）安定した巨額の政府契約で AI 企業の収益保証
- （3）戦争目的に AI を使用することに対する一部世論の反発にどう対応するか

６．以上を踏まえた SpaceX、Anthropic、OpenAI の新規株式上場（IPO）の行方
- （1）イーロン・マスク氏率いる SpaceX はロケットの「スターシップ」と地球規模の通信網「スターリンク」により事業が黒字化しており、投資家にとり魅力的な AI 銘柄
- （2）新たな製品で OpenAI の ChatGPT を凌駕する性能を発揮するとされる Anthropic 株式には投資家が熱い目線を送る
- （3）OpenAI は極めて有望であるものの、どのようにして AI データセンター拡張に必要な巨額の資金を調達するのか不透明（循環投資パートナーのオラクルや Nvidia との不協和音）
- （4）それでもリスクを選好する投資家は OpenAI 株式に殺到すると予想するメディアが多い

７．質疑応答

ＰＲＯＦＩＬＥ　岩田　太郎（いわた　たろう）氏

米 NBC ニュース東京総局勤務、読売新聞社英字新聞部勤務、日経国際ニュースセンター勤務を経て米イーストウェスト・センターに連邦奨学金で留学.。米オレゴン大学歴史学部で博士号取得。
米国の経済を広く深く分析した記事を『週刊エコノミスト』などの紙媒体に発表する一方、『ビジネス+IT』『プレジデントオンライン』『現代ビジネス』『ダイヤモンドオンライン』や『新潮フォーサイト』などウェブメディアにも寄稿する。海外大物エコノミストの独占インタビューも手掛けており、IT 最先端トレンド・金融・マクロ経済・企業分析などの記事執筆が得意分野。「時代の流れを一歩先取りする分析」を心掛ける。

●受　講　料	各受講方法　1名につき　34，540円（税込） 同一のお申込フォームよりお申込の場合、2人目以降　27，500円(税込) ※ライブ配信受講者様で、アーカイブ配信もご希望の場合は追加料金11，000円（税込）で承ります。
●お申込方法	二次元バーコード、又は FAX にてお申し込み下さい。 折り返し受講証、請求書をメール（PDF）にてお送りいたします。 お申込み後、3営業日以内にお手元に届かない場合は必ずご一報下さい。 ※お客様のご都合でキャンセルされる場合は、**「開催1週間前まで」**にお申し出下さい。 その後のキャンセルは、お申し受けできませんのでご了承下さい。
●お支払方法	請求書を発行いたしますので、開催日までに銀行振込でお願いします。（遅れる場合はご相談下さい）

事前に、セミナー講師へのご期待、ご要望、ご質問をお受けしております。
可能な限り講義に盛り込んでいただきますので、お申し込み後、弊社からご連絡するメールにご返信ください。

■ライブ配信について　＜1＞Zoom にてライブ配信致します。
＜2＞お申込時にご登録いただいたメールアドレスへ視聴用 URL と ID・PASS を開催前日までにお送り致しますので、開催日時に Zoom へご参加ください。

■アーカイブ配信について
＜1＞開催日より3～5営業日後を目安に Vimeo にて配信致します。
＜2＞お申込時にご登録いただいたメールアドレスへ収録動画配信のご用意ができ次第、視聴用URLをお送り致します。
＜3＞動画は公開日より2週間、何度でもご都合の良い時間にご視聴頂けます。

4月23日（木）	「米国 AI ブームの行方」	申込日　　月　　日

貴 社 名			
所 在 地	〒　　○印をお付けください（ご自宅 ・ お勤め先）		

参加希望の受講方法を選び□に✔をお入れ下さい。（アーカイブ配信の追加受講をご希望の場合は、2つ☑をお入れ下さい。）

□ ライブ配信		□ アーカイブ配信	
氏（フリカナ）名		所属部署・役職	
ＴＥＬ	（　　）　　－	ＦＡＸ	（　　）　　－
Ｅ－mail	ブロック体でのご記入をお願いいたします。		

参加希望の受講方法を選び□に✔をお入れ下さい。（アーカイブ配信の追加受講をご希望の場合は、2つ☑をお入れ下さい。）

□ ライブ配信		□ アーカイブ配信	
氏（フリカナ）名		所属部署・役職	
ＴＥＬ	（　　）　　－	ＦＡＸ	（　　）　　－
Ｅ－mail	ブロック体でのご記入をお願いいたします。		

※「受講証」等の送付先が上記と異なる場合は下記にご記入下さい。

通信欄	

●E-mail アドレス登録受付＆ご紹介キャンペーン実施中〔Amazon ギフト券（500円）を進呈いたします〕
□セミナーへのお申込みではなく、メール配信登録のみの方は左記へ✔を入れて下さい。
※携帯アドレス、フリーメールアドレスは登録対象外となっております。
※メール配信登録をご希望の方をご紹介下さい！ご紹介いただいた方には Amazon ギフト券（500円）を進呈させていただきます。
※上記お申込フォームに、ご登録情報（貴社名・所在地・氏名・所属部署・役職・メールアドレス）をご記入下さい。

詳細・お申し込みはこちら↓

■主催（お申込み・お問い合せ先）**株式会社　新社会システム総合研究所**
お申込み受付 FAX ０３－５５３２－８８５１
〒105-0003　東京都港区西新橋２－６－２　ザイマックス西新橋ビル4階
Tel:03-5532-8850／E-mail:info@ssk21.co.jp／URL:https://www.ssk21.co.jp
※配信停止、宛先変更、個人情報の苦情及び相談・開示は上記までご連絡下さい。